

評価	長期経営目標	短期経営目標	主な取り組み内容	評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者の評価	評価
学力向上	すべての生徒の進路が保障されている (行きたい学校へ)	(1)チーム会、チーム長会を中心に教科間連携が組織的に図られ、校内研修や研究授業の活性化により、チーム会共通テーマである「新学習指導要領にそった指導と評価の一体化」の授業改善が進められている。 (2)学力向上が組織的に図られている。 (3)家庭学習の定着が組織的に図られている。	(1)チーム会を毎週1回、チーム長会を毎月1回実施し、授業改善に取り組む。学習部を中心に生徒の取組を推進する。 (2)全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査について、事前の手立てや、事後の結果分析などを全教職員で行う。 (3)研修職員会等で全学年の家庭学習の内容確認を行う。また学年会やチーム会で、生徒の情報や各教科の状況等を共有し、授業内容の定着に向け協議していく。	(1)①生徒の授業評価アンケート「意欲的に授業に参加している」の 肯定群が85%以上 ②教員の授業改善評価アンケート「根拠を基に自分の考えを説明させている」イ「本時のねらいが達成できている」ウ「振り返りの場の設定」すべて、 肯定群75%以上 (2)全国学力学習状況調査及び高知県学力定着状況調査で 全国平均並み(-3P以内) (3)家庭学習時間において 1時間以上の生徒70%以上、うち2時間以上の生徒40%以上	左記「評価指標」に対して (1)①生徒の授業評価アンケート 肯定群98.5%以上 ②教員の授業改善評価アンケートすべて 肯定群77%以上 (2)全国学力学習状況調査 全国比(国-1)(数+1.6)(理-1.3) 高知県学力定着状況調査 高知県平均並みは10教科中7教科 (3)家庭学習時間 1時間以上の生徒45.2% うち2時間以上の生徒19.3%と大幅に減少している。	(1)チーム会やチーム長会等を通して全教員が授業改善に向け協力している研究推進を継続する。現在「教科共通の取組(生徒版)」の見直しや生徒会学習部と執行部で継続する。 (2)課題は多いが、無解答率は非常に少なく記述式の正答率も高い。各調査の結果において授業改善の取組の成果は始めている。今後も、生徒に付けるべき力の明確化や、指導と評価の一体化をめざしていく。 (3)2学期後半より取り組んでいる家庭学習プリントの活用やタブレットの活用も踏まえて、家庭学習の在り方を見直しいくとともに、スマートフォンなどの利用も含めて生活習慣の見直しを家庭と連携して取り組む。	・学力向上 概ね評価指標を達成している。 ・学力の値については、平均値を上回っているが、家庭学習時間等に課題が見られる。 ・学力向上、家庭学習、読書活動など課題になるところがつつながっている。うまく取り組みができれば全体が向上するのではない。	A
豊かな心	「幸福・愛・信じあう心」が通う学校が創造されている	(1)生徒個々の自尊感情が向上している。 (2)生徒個々の規範意識が向上している。 (3)学校図書館の環境整備がなされ、利用者が増加している。	(1)①道徳の授業で、教科書教材を各学年の実態に応じて計画的に活用し、全校体制で取り組み、道徳実践力を育成する。②教育活動全般を通して、自他の命を大切に、思いやりのある生徒の育成に努める。また、個々の生徒の強みを生かして活躍する場面をつくり生徒間の相互評価で肯定的評価を仕組み、自尊感情を高める。 (2)学校生活において、全教職員で取り組み、肯定的評価や声かけを行う。 (3)①学校図書館の環境整備をし、図書を充実させる。 ②朝読書を継続し、生徒会図書部の活動を中心に、読書への呼びかけを継続していく。	(1)①道徳意識調査 ア「将来の夢や目標をもっている」イ「自分には良いところがある」ウ「人が困っているときは進んで助けている」の 肯定群が80%以上 ②Q-Uアンケートにおける 学校生活不満足群の生徒が前年度より減少 (2)生徒の学校評価アンケートア「ルールやマナーを守っている」イ「あいさつができています」の 肯定群が85%以上 (3)学校図書館の 利用数が前年度より増加、読書アンケート「読書が好き」の肯定群が80%以上	左記「評価指標」に対して (1)①道徳意識調査(5月→1月) ア「将来」 61.9% イ「自分」 58.7% ウ「人が」 86.5% ②Q-Uアンケート 昨年度21% 今年度7.1% (2)生徒の学校評価アンケートア「ルールやマナー」 93.8% イ「あいさつ」 89.2% (3)学校図書館の 利用数は前年度より更に減少した 。読書離れが進んでいる。学校ぐるみの取組が必要である。 「読書が好き」の肯定群65% で減少している。	(1)①ほぼ数値は達成しているが、継続して行事等の取組を通して自信を持たせたり、ポイスチャー等の取組を行ったりしていく。キャリア教育の充実を図る。 ②Q-Uアンケートについては各学年で分析し全体で共有することや、学年会や校内支援会などでの情報共有を通して、教職員の見守りや個々への支援を継続していく。 (2)生徒会の活動と合わせながら、生徒自身により良い行動について考えさせながら、価値づけを行っていく。 (3)読書離れが進んでおり「読書が好き」の肯定群引き上げも併せ、生徒会図書部の活動を中心に置きながら、学校全体で取り組んでいく。	・自己肯定感が下がっているのが気になる。 ・あいさつは何のためにするのかを理解できているだろうか。コミュニケーション向上、人と人のつながりのきっかけになるものであるため、大切である。 ・挨拶が受け身になっている。積極的な挨拶を期待する。 ・SNSが普及して活字離れが進んでいる。	B
健康安全	たくましく生き抜くための体力や健康的な生活習慣が身についている	(1)保健体育の授業や部活動に意欲的に取り組んでいる。 (2)栄養バランスのよい朝食をとっている。 (3)肥満度20%以上の生徒の割合が前年度より減少し、肥満傾向生徒の中で肥満度が減少した生徒がいる。	(1)保健体育の授業で各学年に応じ、多様な運動との関わりになるよう工夫し、運動への意欲を高める。各部活動でランニングやトレーニング等を促す取組を行う。 (2)学期に1回生活点検を実施し、現状や改善状況を把握する。保健だよりで家庭への啓発を行う。教頭がPTA役員会に提案し、PTAとしてできることを検討する。 (3)年2回身体測定を実施。生徒・保護者に対する医療機関受診勧告、保健指導の推奨、家庭での生活状況の聞き取り等を行う。	(1)①「保健体育の授業が好きである」 肯定群85%以上 ②全国体力・運動能力調査のT得点において男女ともに 全国平均以上 (2)朝食における 三色食品群の摂取率が前年度3学期より増加 (3) 肥満度20%以上の生徒の割合が前年度より減少、肥満傾向生徒の中で肥満度が減少した生徒がいる。	(1)①「保健体育の授業が好きである」 肯定群ほぼ100% 。②全国体力・運動能力調査の 全国平均を上回っているものをあり、県平均はほぼ上回っている。 (2)三色食品群の摂取率 5月50.9%→9月42.3%→1月40.5% 9月以外は前年度3学期(54.6%)より減少 (3) 肥満度20%以上の生徒4月9.4%→2月9.4% 前年度3学期(7.4%)より増加 肥満傾向生徒の中で肥満度が減少した生徒2名	(1)どの学年も全体的に個々でポイントが上がっており、下回っている項目も全国や県平均に近づいてきている。今後も計画的な活動を推進し、運動に親しむ環境を継続し、体力・持久力をつけていく。 (2)学期に1回の生活点検及び事後の個別保健指導、保健だより等での啓発による成果であると思われるので今後も継続していく。 (3)肥満度20%以上の生徒は心理面の不安定さがあり指導が難しく、2回目の計測ができていない生徒もいる。肥満度が減少した生徒のうち1名はすでに肥満傾向が解消し、もう1名もあと少しで肥満傾向が解消する段階まで改善しているので、今後も指導を継続していく。	・保健体育の授業が好きであるの項目が100%肯定になっているのが素晴らしい。 ・実際に授業を参観したが、基礎基本を大切にしながら楽しそうに受けている。 ・肥満度の問題は家庭の協力が必要不可欠であると思う。もっと家庭に協力してもらうような手立てがほしい。	A
不登校・特別支援	○生徒全員が安心して登校している ○ユニバーサルデザインの視点を生かした学校づくりが行われている	(1)不登校(長期欠席)生徒への総合的な対応が行われている。 (2)不登校の未然防止の取組を行い、新規不登校(長期欠席)生徒がいない。 (3)障害の状態や教育的ニーズに応じた指導・支援が充実している。	(1)居場所づくり。全職員での情報共有。学級ではなかまづくり、教員とは信頼関係づくり。 (2)①学期1回担任等との二者面談。SC・SSW・家児相等、関係機関との連携・協働。校内支援会の実施。 ②生徒の活躍の場を設定し、生徒間の肯定的評価を仕組み学級づくり。 ③いじめの早期発見・早期対応と未然防止への取組。 (3)①校内研修・校内委員会の実施。サポート支援事業の活用(特別支援学級)。②放課後や長期休業中の学習会実施。	(1)～(3)生徒の学校生活アンケート「みんなで何かするのが楽しい」の 肯定群が75%以上 (2)30日以上欠席生徒数、 前年度より減少及び新規生徒数の減少 ③認知したいじめの 解決率100% 道徳アンケート「 いじめはどんな理由があってもいけないこと 」の 肯定群が100% (3) 年間1回以上の校内研修、月1回以上の校内支援会 の実施。	(1)～(3)生徒の学校生活アンケート「みんなで何かするのが楽しい」の 肯定群93% (2)30日以上欠席生徒数、4名。 新規生徒数は、2名 ③認知したいじめの 解決率100% 「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の肯定群100% (強い 肯定群86.4%) (3)講師招聘研修(年2回実施)サポート事業(1学級1回実施)校内支援会(各月実施)	(1)登校した際には、基本的に学年団が対応する等、継続して居場所をつくる体制がとれている。 (2)学級の生徒や家庭や教職員や関係機関のかかわりのなかで、進路への意識も高めながら、学校に来る意味や必然性を持たせて登校を支援して行く。今後も欠席生徒等の情報交換を毎朝全教職員で行い、家庭との連絡を密にし、信頼関係の構築に努めていく。「待つ」姿勢と個別支援を継続する。 (3)アンケートや生徒と個人面談を行い、肯定的な声かけによって生徒に寄り添っている。継続して「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の強い肯定群の上昇をめざす。 (3)継続して行う。	・全校生徒数に対して不登校の生徒が多いのではない。 ・いじめの対応も早期に出来ている。同様に不登校生徒へのつながりも出来ている。 ・今後も取り組みを継続してほしい。	A
防災教育	防災を中心とした安全教育・安全管理が充実している	(1)計画的に避難訓練及び防災学習を行い、災害に備えている。 (2)生徒の防災意識が高まっている。 (3)校内の安全点検が組織的に行われている。	(1)(2)様々な状況を想定した避難訓練を行い、「高知県安全教育プログラム」などを利用して防災学習を行う。また「いのぐ記者」の活躍の場をつくり、生徒の防災意識を高める。 (3)担当箇所を決め、教職員全員で校内の安全点検を行いながら、専門委員会の活動にも反映させる。	(1)年間、 防災学習を5回以上、避難訓練を3回以上実施 (2)学校評価アンケート「地震が起こったときどのように行動したらよいか分かっている」の 肯定群が90%以上 (3)校内安全点検を 学期に1回実施 (教職員及び専門員会生徒)	(1)年間、 防災学習5回以上(全校学習5回)、避難訓練3回実施 (2)学校評価アンケート「地震が起こったときどのように行動したらよいか分かっている」の 肯定群86.2%以上 (3)校内安全点検を 学期に1回長期休業中に実施	(1)全校防災学習を5回行う計画であったが、新型コロナウイルスの感染状況により、3回の実施となったので、回数と内容の充実を行う。集会などで「いのぐ記者」が学んだことを全校で共有する機会を持たせて継続して行っていく。 (2)アンケートの結果も減少しているので防災に対する意識を高めていく。 (3)危険箇所発見から、村教育委員会に修繕や対応をしていただき改善している箇所があるので、来年度も継続して実施する。	・コロナ禍の中で、全員が集まって防災の取り組みをすることに制限があったと思うが、概ね目標を達成している。 ・いのぐ記者など学校外での活動に自ら参加している生徒が素晴らしい。またそこで得たものを全校生徒で共有できていることも評価する。 ・今後もやり方を工夫して継続してほしい。	A
小中連携	小中学校で9年間を見通した全体計画の作成及び編成を推進する。	小中学校の情報共有を定期的に行うとともに、全体計画、年間計画、単元計画などの見直しを進める。	担当教員を中心に小中間で教員の連携・交流を活性化。研究通信の活用や公開授業研究の機会を通じて、小中相互の実践や地域の情報について共有する。	地域の人材バンクや特産品などを生かした小中の系統的な指導計画が編成されている。	(1)小中で実践交流の機会を学期に1回以上もつために合同職員会を行う。 (2)担当教員と連携して、年間指導計画やカリキュラムマネジメント表を見直しを進める。	(1)今後も合同職員会を持ちながら小中連携を進めていく。また、定期的に管理職・担当教員や研究主任などで会を持ち、課題の共有や進捗管理を進める。 (2)常に見直しや改善を進め、目指す子ども像をイメージした児童生徒の継続的な指導を続ける。	・9年間の見直しを持って、小中連携を進めてほしい。 ・小中合同研修会等でさらに連携が進むことを期待している。	B